

はじめに、

XMLコンソーシアムでは、2008年、2009年の2年間に亘り会員対象に「XML活用状況実態調査」を実施しました。本編はその結果をまとめたものです。

XML1.0の勧告から10年以上経過した今日、XMLあるいはXMLを実装した技術は、着実に浸透しつつあり、システム間連携の送受信データ、コンテンツ記述にXMLを用いることは半ば常識となっています。しかしながら、XMLの利活用は極めて静かに進んでおり、動向や事例などを参照できる資料が乏しいこともあって、利活用の実態が判りにくいという実情を抱えています。そのような現状から、XMLの利用推進を活動目的とするXMLコンソーシアムとしては、XMLの現状を広く国内の企業に認識していただくことを目指し、XML活用状況実態調査を実施し、その結果を公開することといたしました。

調査は本会会員を対象に、アンケートを実施しました。2008年2月7日～2008年2月15日、2009年7月29日～2009年9月25日の2度に亘り調査した結果を突合せ、継続使用中のシステムを一本化するなどデータの重複削除を行い、最終的に98会員、135システムに絞り込み、そのデータを集計したのが本調査結果です。

調査対象や回答母数の点から、本実態調査の結果はXML利活用状況の氷山のほんの一角を示しているに過ぎません。本会としてはあくまで参考資料と位置付けておりますが、同種の資料が見当たらない現状においては、それなりに意味あるものかと考え、公開する次第です。かかる状況をご理解の上、本調査結果をご参照いただけましたら、本会としてまことに光栄です。

調査の実施ならびに結果集計に尽力くださった松山憲和氏（PFU ソフトウェア）に感謝いたします。

2010年3月
XMLコンソーシアム